

第1章 調査研究編

I 研究の概要

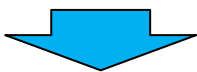
1 研究主題設定の理由とその背景

(1) 法令等の整備

- 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進(H24)
 - ・同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備するために特別支援教育を推進することが必要である。
- 新学習指導要領の公示(H29.3)
 - ・全ての教科等の、「指導計画の作成と内容の取扱い」において、「障害のある児童（生徒）などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。」と明記。

(2) 特別支援教育に係る県の状況

- 特別支援学級の設置の促進（小：80.6% 中：75.2% H29.5.1 現在）
 - ・特別支援学級の設置増加に伴い新担当者が増加している。
 - ・市町村、学校内における事情で臨時的任用教員の担当者も依然として多い。市によっては半数以上の特別支援学級の担当者が経験3年未満及び臨時的任用教員の担当者となっている所もある。
- 指導者の不足
 - ・ベテラン層の大量退職の影響もあり、特別支援教育に精通している教員や、「特別の教育課程」を作成したことがある教員が少なく、校内に相談ができる人がいない状況がある。
 - ・管理職や市町村教育委員会指導主事が適切な指導助言を与えながら、特別支援学級担当者が学級経営をしているが、専門性の向上が難しいという現状がある。



- 特別支援学級新担当者の研修及び、初めて特別支援学級担任をする臨時的任用教員への研修の実施
- 特別支援教育推進専門員による巡回指導・支援
- 管理職等への特別支援教育に関する理解啓発・研修の実施

2 研究の目的

本研究の目的は以下の2点である。

特別支援学級の担当者等が「特別の教育課程」を理解し、その編成に資するために、

- (1) 特別支援学級の「特別の教育課程」編成上の課題等を整理する。

- (2) 整理した課題等をもとに、特別支援学級の教育課程編成のための手順やポイントを知的障害特別支援学級と自閉症・情緒障害特別支援学級に絞って「ハンドブック」にまとめ、それを広く教員等に発信する。

3 研究の方法

(1) 先行研究の収集・分析

- 竹林地毅 (2014) 「小学校特別支援学級担任者の専門性向上に関する調査」

- ・特別支援学級担任になったらすぐに必要な研修

特別支援学級の教育課程の編成…70.1%	実態把握・アセスメント…51.9%
障害のある児童生徒の理解…69.3%	年間指導計画の作成…51.1%
授業作り…68.8%	個別の教育支援計画の作成と活用…49.8%
個別の指導計画の作成と活用 56.3%	

- 全国特別支援学級設置学校長協会調査部 (平成 23 年度)

- ・特別支援学級担当は教職経験 30 年目の教員が一番多く、平均すると 24.8 年である。
- ・特別支援学級を担当した経験年数は 2～3 年の教員が全国的には多く配置されている。

- 特総研「特別支援学校及び特別支援学級の教育課程の編成に関する研究」(平成 26 年)

- ・小学校・中学校学習指導要領を踏まえた上で、「特別支援学校学習指導要領に定める事項を取り入れた教育課程を編成することができる。」と理解することが重要である。
- ・学級担任の専門性の確保・向上・維持、障害の程度や学年等が異なる児童生徒を対象とする特別支援学級の教育課程編成の在り方、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する知的な遅れのない児童生徒を対象とする教育課程編成の在り方が課題である。
- ・校内の指導体制整備、障害種に対応した専門性をどう担保するかが喫緊の課題と考えられる。このことから、特別支援学級について理解啓発を進めること、当該の児童生徒に対する適切な指導、支援を学校全体・教師全員の課題ととらえることが重要である。

(2) 市町村教委等への聞き取り調査より

各地区内で無作為に抽出した市町村教委等の特別支援教育担当指導主事に、特別支援学級の教育課程編成に係る課題等を伺ったところ、以下のようなキーワードが浮かび上がった。

課題と感ずる事柄のキーワード

- ・適切な障害種の特別支援学級への入級
- ・複数名在籍しているのに皆同じ教育課程
- ・臨時的任用教員や経験の少ない担当の増加
- ・知識や理解のある管理職の存在
- ・相談できる人の存在
- ・合理的配慮
- ・実態把握に基づく目標設定、個別の指導計画の作成
- ・昨年度と同様の教育課程の編成
- ・保護者の願いと子供の実態の差異
- ・自立活動、生活単元学習の理解不足
- ・高校受験をする子の評価方法
- ・年度替わりでの担任間の引継
- ・参考資料の見つけ方

どの市町でも、教育課程作成にかかる課題があり、研修会を行ったり、専門員を派遣したりする

等の様々な工夫を実施しているものの、苦慮している様子が伺えた。

(3) 特別支援学級新担当者アンケートより

総合教育センターで実施する特別支援学級新担当教員研修会の受講者183名に、アンケートで特別支援学級の教育課程編成に係る課題や悩み等を抽出したところ、以下のようなキーワードが浮かび上がった。

課題や悩みのキーワード

・時間割の作成	・系統立てた年間指導計画
・個別の指導計画の作成	・実態把握の仕方
・個人差がある中での一斉指導	・ステップアップするタイミング
・卒業までにどこまで学習を進めるかの見通し	・交流学級とのかかわり方
・行事への参加の仕方	・合同学習の進め方
・中学校への接続の仕方	・学び合いのさせ方
・自立活動、生活単元学習、作業学習の計画、活動の進め方	

新担当者については、1年間の見通しをもつこともそうであるが、一日一日をどうすればよいか模索している状況であり、道しるべとなるものが早急に必要であることが分かった。

(4) 「特別支援学級ハンドブック」を作成し広く教員等に発信

この「特別支援学級ハンドブック」は、初めて特別支援学級を担当する教員が「特別の教育課程」を作成する際に参考となるように、可能な限り具体的に示すように作成した。作成に当たっての研究の全体像を図式化して下に示す。

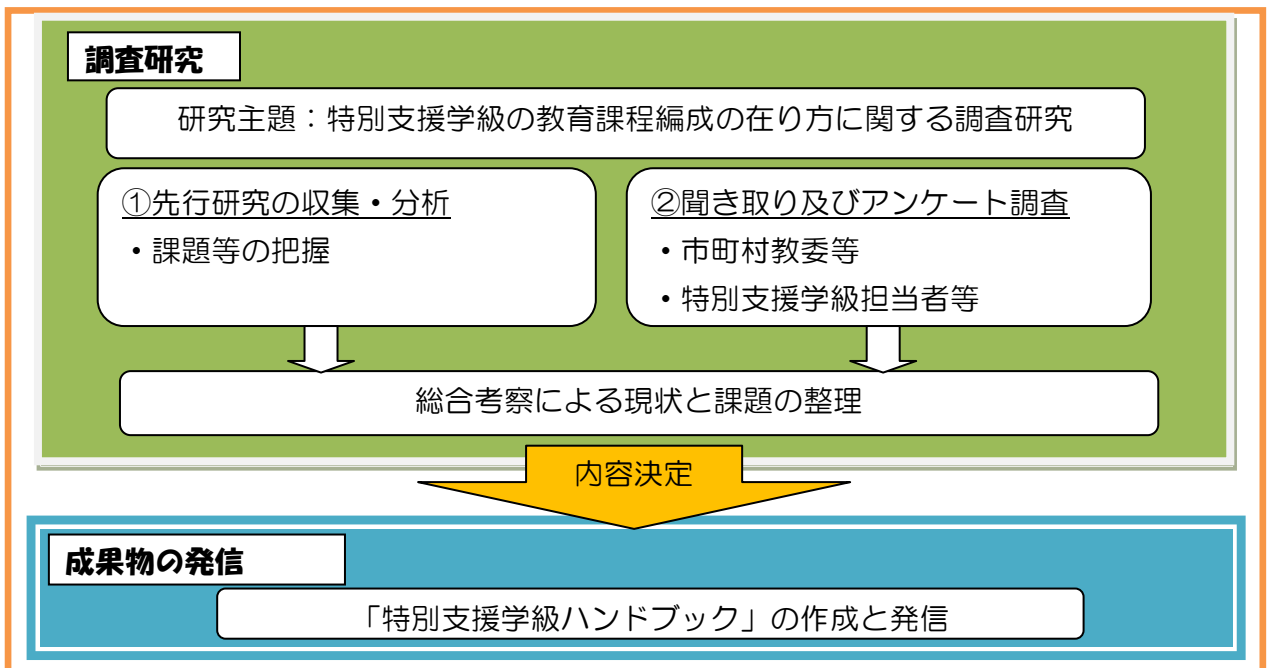


図1 本研究の全体像